

平成 27 年度 初夏 号



日本鑄金家協会 会報

THE METAL CASTING ARTISTS AND CRAFTSMEN'S ASSOCIATION OF JAPAN



『江ノ島駅のピコリーノ』

2015年4月27日撮影
写真：小林京和

日本鑄金家協会 事務局

〒145-0064 東京都大田区上池台 4-23-20

橋本明夫方

HP

E-mail

TEL / FAX 03-3270-1953

www.imono.net

kyoukai@imono.net

特集記事 【ピコリーノの制作・村中保彦氏】

インタビューア－：小林京和

最近のことですが、会員の村中保彦さんのお仕事が紹介されているネットの記事を見かけました。公園などの車止めに、アルミ製の小鳥の彫刻が付いているデザインがあるのを、ご存知の方も多いかと思えます。その原型をデザインされたのが村中さんでした。日本中の至る所でよく見かける装飾なので、かなりの数があるのでしょう。（商品の正式名称は、『ピコリーノ』といいます。）

誰もが「ああ、あの小鳥か！」と思いつくデザイン、その制作の経緯をインタビューしました。

Q: どのような経緯でデザイン制作をされることになったのでしょうか？

村中: 東京で個展をしていた時に、ピコリーノを制作している会社の方が、たまたま私の動物の作品を青山の骨董店で観られて、この店でご主人の紹介で連絡してられました。

この会社は広島に本社があるサンポールという、車止めや、旗ポールなどを作り、街の景観に関わる仕事をしている会社です。私が広島ということでとんとん拍子に原型を造ることになりました。

車止めに4個の小鳥を付けることは決まっていました。原型は2種類作ってパイプに付ける角度を変えることにより、異なった小鳥が4羽いるイメージを出すということも最初に打ち合わせました。

ダイカストのアルミ鋳物ということで抜け勾配について原型の直しが数回あったと思います。また、金型の分割する方法、見切りについても原型を見ながら打ち合わせをしました。

粘土原型から型取りした「銅の原型」は金型の特性上形がまあいので、これにタガネで羽の形をはっきりさせ、羽に鋸目を付けて手作り感を表現することになりました。

小鳥のダイカストのアルミ鋳物の仕上げはバフ掛けということで、事前にダイカスト鋳物の工場と、鋳物の仕上げバフ掛けを専門にしている工場にも見学に行きました。



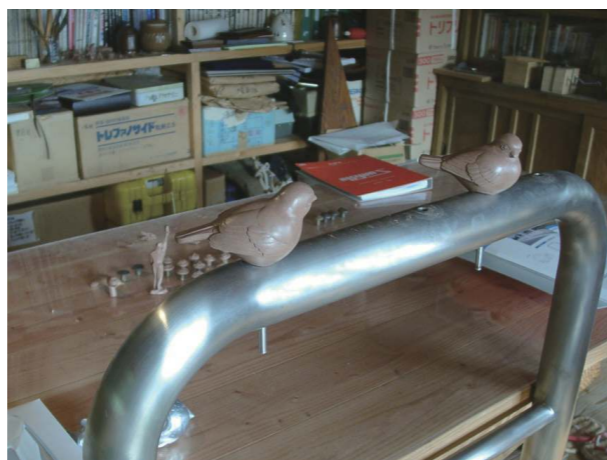
左： ステンレス製の車止めの上にアルミダイカスト製の4羽の小鳥が乗っています。正式名称は『ピコリーノ』

左下：粘土原型は二種類

右下：ステンレスポールに取り付けてみる

下記 URL はサンポール製品「ピコリーノ」ができるまでです。参考にいただければと思います。

<http://www.sunpole.co.jp/stories/2015/01/picolino01.php>



左上：銅の原型 金型のための「見切り線」がペン描きされています。

左：銅の原型には、タガネでテクスチャーが入れられ、手作り感を演出しています。

右上：アルミ ダイカストの完成品

(サンポール社様より画像をご提供いただきました。)

< 製造メーカーの情報 >

株式会社 サンポール

公共空間の「車止め」や「旗ポール」「防護柵」等を作っている建築金物の国内トップメーカーの製造会社です。

設立：1970年

資本金：1億円

従業員数：148名(2014年10月)

本社：〒730-8667 広島市中区南吉島2丁目4-5

URL：http://www.sunpole.co.jp



Q: 鋳金作家を志す若者にとっては、なかなか作家として活躍するのは難しい時代だと思うのですが、何かアドバイスをいただけないでしょうか？

村中: 銀やブロンズを遠心鋳造で鋳込む、という程度は自分でやりますが、基本的には鋳物屋さんに発注しています。鋳造で物づくりをしていくときに、全てを自分で行うのは難しい、と考えています。

鋳物の場合は発注ができるということが、むしろ強みだと思うように割り切っています。また、他の技法に比べて同じものを沢山作れる、ということも鋳金の強みだと思います。鋳金の強みを生かした作品作りをすることで、この20年やってきました。

40歳になる2か月前に脱サラをして物づくりで生活するようになりました。脱サラする直前、たまたま初めて屋外に設置する作品の仕事が入りました。屋外に設置するということで、ステンレスという素材が良いと、、、この時考えたデザインが、ステンレスの板を加工した形「平面で構成された無機的な形」と、鋳物の形として作りやすい「有機的な形」の組み合わせでした。ちょうどこの頃、主にステンレスを加工する鉄工所を紹介されたこともあり、自分のイメージを形にすることができました。

鋳物で作品を作っている方は、鋳金の技法のみで制作をされる方が多いように思いますが、板と組み合わせることによって、鋳物の有機的な形がより特徴的に見えてくるように思います。今は、多くの作品でステンレス板を溶接しながら鋳物と組合せた制作をしています。鋳物の技法のみにこだわらず、他の素材や技法と組み合わせることによって、鋳物の良さも見えてくるように思っています。

興味深いお話をありがとうございました。

(画像提供：村中保彦氏、サンポール社より サンポールのH.P.も参考にさせていただきました。)



表紙： 『江ノ島駅のピコリーノ』

神奈川県藤沢駅から鎌倉駅までの海沿いを走る江ノ島電鉄。その「江ノ島」駅前には、「着替えをするピコリーノ」たちがいます。

近所の売店スタッフの方がご厚意で始められたことなのですが、退職後も続けてくださっています。今や観光客の人気撮影スポットになっていました。

実は村中さんのピコリーノは二代目。初代のピコリーノは尻尾が立っています。金型が壊れるほど沢山作られたので、二代目の誕生となったのです。

村中さんの原型になってからは9年ほどで、すでに5,000羽も誕生しているそうです。工業製品だからこそ、鑄金家の造形力や遊び心が試されるのかも知れません。

二代目のピコリーノたちも何処かで可愛がられているのでしょうか。

(写真・取材 小林 京和)

左／初代ピコリーノ

右／二代目ピコリーノ（村中保彦氏の原型）

以下、ピコリーノを製造しているエクステリア・メーカー「サンポール社」のHPからの引用です。

* * *

「ピコリーノができるまで」

製品開発ストーリー

「公園の入口に設置されている門型の車止めの上に、子供が飛び乗って座るなどして転倒する事故が多発し解決策を検討している。」

常々、「児童公園の入口に無機質な門型車止めは相応しくない・・・」と思っていた榎藤（当時専務）は、この情報をヒントに、子供が飛び乗れないようにする機能と子供の遊び場に相応しい意匠を融合した製品を開きました。そうして誕生したのが「ピコリーノ」です。（中略）

「金型代（イニシャルコスト）や生産効率を第一に考えたら、1つのポーズ（型）で二羽～三羽を等間隔に並べることになる。しかしそれでは面白味に欠ける。この製品で、通りすがりの人々に安らぎを与えたい。一寸でも微笑んでもらいたい。親子で物語を創って欲しい。だから、敢えて2つのポーズ（型）を作り配置や羽数にも気を使った。やがて、4羽の内、1羽を「はぐれ鳥」にすることで、情緒が生まれ、小鳥たちの間に物語も生まれた。」

お陰さまで、ピコリーノ誕生から35年経た今、会社名を知らなくても「この製品は知っている」と言われるほど市場に浸透しています。ピコリーノはまさしく外部空間を豊かにクリエイトする製品となったのです。

引用元：

<http://www.sunpole.co.jp/stories/2015/01/picolino01.php>



親子連れに頼まれて、駅員さんが写真を撮ってあげていました。

ピコリーノたちは一ヶ月に1～2度着替えをするそうです。

ちなみに、この日は「江ノ電カラー」でした。